

2016年2月8日

札幌チャレラジオ通信 第5回

加納：はい、三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちわ。1月から始めました札幌チャレラジオ通信の時間がやって来ました。私はパーソナリティをしておりますNPO法人札幌チャレンジの加納です。よろしくお願いします。この札幌チャレラジオ通信は障害のある方・自立を目指す障害のある人がITで、マザル・ハタラク・拓きあう社会をつくりたい、そんな思いで活動しているNPO法人札幌チャレンジが、ええ毎週月曜日三角山放送局から午後3時から30分お届けしております。ええ今日は私と札幌チャレンジの講習グループのリーダーをしております飯村さんと二人で進めていきます。飯村さんよろしくお願いします。

飯村：はい、よろしくお願いします。

加納：札幌チャレラジオ通信、ええ今日でまあ5回目ということなんですが、今まで1回目から4回目はですね、札幌チャレンジで4つのグループがありまして、それぞれはグループを担当しているスタッフが来てですね、それぞれのグループの、まあ担当の内容を話した訳ですが。

飯村：そうですね。

加納：とうとう今日から外部のゲストの人に来てもらってですね、本格的に札幌チャレのことをですねお伝えしていければということです、はい。それではですね早速ですが、今日のゲストをご紹介しますと思います。札幌チャレンジのパソコン講習の講師として活躍していただいています石島さんと梅田さんです。こんにちわ。

飯村：こんにちわ。

石島・梅田：こんにちわ。

加納：緊張しています？ふふ、大丈夫ですか？あの昨日の夜なかなか、喉も食べるものも喉も通らなかったような、そんなことないですか？大丈夫ですか？

梅田：あっ、かろうじて、えへへ。

加納：食べられました？かえって食べれない方がダイエットになっていいなって。話はないですか？ふっふっふ。

梅田：確かに。

加納：大丈夫ですか？はっはっはっ、はいはいはいでは、こんな下らないことは言ってないで進めていきたいと思いますが、札幌チャレンジドのまあ本当に根幹となるですね、まあルーツの事業であるパソコン講習というのをまあ札チャレができたのが2000年ですから、もう16年ずーっとやり続けているわけですが、そのなかで講師として活躍していただいているお二人ですが、まずはですねお二人に自己紹介としてですね、札幌チャレンジドとどんなかたちで出会われたのかとかですね、あと可能な範囲でどのような障害があるかも、合わせてですねお聞きいただくと、ラジオをお聞きの皆さんがですね、こういう人が札チャレのパソコン講習の講師をしていのかということがわかると思いますんで、まずは石島さんからよろしいですか？

石島：はい

加納：はい、ではお願いします。

石島：よろしくお願い致します。札幌チャレンジドの講習グループでパソコンの講師を担当しております石島トモコと申します。私はですね2007年の夏に知人の紹介で加納さんに出会い、病気のことまた就職先が厳しかった現状、また苦しい気持ちなどを聞いて下さったこの日が私の札チャレとの出会いの日です。ええ私はですね現在、高次脳機能障害という障害をもっております。モヤモヤ病という難病の病気で頭の手術を二回ほどしました。バイパスの手術だったんですけども、術後はですね特に問題もなく健康だったんですけども、術後7年経ってから、この病気が見つかりました、はい。でですねそのような感じでええ今高次脳機能障害を持ちながらも札チャレで講師としてお仕事させていただいています。

加納：はい、ありがとうございます。2007年でしたか？

石島：はい。

加納：じゃもう9年。

飯村：9年、9年目ね。

加納：9年。早いっすね。

石島：早いですね。

加納：なんか、まだ、あの出会ってから3年とか4年ぐらいしか経っていないような感覚がありますけど。もうそんなに経ってたんだあ。

石島：そうなんですね。

加納：そうですか。はい、ありがとうございます。ではもう一方、梅田さん、お願いします。

梅田：はい、みなさんこんにちわ。私はまあ、札チャレと出会ったきっかけというのは、2003年にあのハローワークの方で、パソコンのあの仕事がしたいというのはずっと昔から思っていたんですけども、なかなかやっぱりそういう漠然なんかとパソコンって喋ってくればいいのになあと思っていたことはあったんですけど、でもやっぱりその音声パソコンというのに出会ってなかったんですよね。それで、たまたまっていうか、あのハローワークの方で、いろいろ何か仕事ってないでしょうか？って何度となく、あのご相談にのっていただいていたんですけども、その時に、こうゆう風に音声パソコンを使って、自立を目指すというか、視覚障がいの方がパソコンを操作するっていうのが9月からやりますよってということで、そいでまあハローワークとしての一環だったので平日、週五回ですね。週五回行って、あの約一か月ぐらいで、こうゆう音声パソコンを知っていたという感じですね。で私の場合はもともと視覚障害があったので、視覚障害と左異常下肢の脳性麻痺ですね。それが軽度なんですけども、もともとあってそうゆう障害があります、はい。

加納：はい、ありがとうございます。そうですね完全な全盲っていうことはなくて見えてるんですけど、なかなか読むだけだとつらいので。

梅田：そうですね。

加納：音声読み上げソフトのパソコンを今は使っていると。

梅田：はい。

加納：その2003年のときにはじめて音声読み上げソフトと出会って、そこから勉強するようになったんでしたっけ？

梅田：そうなんです。あの札幌チャレンジドさんが初めてっていう感じですね。

加納：それが今やもう講師としてね

飯村：音声パソコンね、うふふ。

加納：飯村さんの一番弟子ですか？

梅田：うふふ。

飯村：うーんまあ、そういうことにしておきましょう。本人なかなかそうは言わない。

加納：師弟関係だあ。うふふ、言わない。

飯村：言いたくないんだろうなあと。

加納：はい、そうですね。そんな今はお二人とも札幌チャレンジドの本当にパソコン講習で講師として活躍をしていただいておりますが、札幌チャレンジもいろんなパソコン講習といっても、対象であったりやる場所であったりですね、いろんな講習があるのでそれぞれどんな講習を担当しているかを教えていただくのと、教えるってなかなか難しいことだと思うんだけども、どんな思いで講師をしているのかとか例えばこんな工夫をして頑張ってますとかですね、こんな翼が実はあるんですとかですね、まあ話し出したら止まらない思いあると思うんですが少しお聞かせください。石島さんいかがですか？

石島：はい私はですね、現在担当しております講習は三つほどになります。一つ目が就労移行支援の方でワードとエクセルの基礎と日商PC検定対策の方を受け持たせていただいております。でワードとエクセルの基礎では視覚に障害がある方も含めて担当させていただいております。二つ目がですね札幌チャレンジドの札幌チャレ講習を行っております。現在ワードとエクセルですね、そちらの入門から初めてスタートしております。あとですねサーティファイの検定対策の方もやらせていただきました。そして三つめになりますけども札幌市で行っているパソコン講習会の五つほど講が、コースがあるんですけども、そのコースをですね月いろいろ月替わりで担当させていただいております。で最後にですね札幌市のパソコンボランティアの派遣の方もやらせていただいております。

加納：そーかそーか派遣も行ってくれてるんだあ。

石島：はい

飯村：ほとんど全部だね、考えられるものの。

石島：そうですね。

加納：ほんとうだね。

石島：講習の中での先ほどおっしゃっていた苦労とかっていう話なんですけども、苦労というよりも講習が終わってから楽しかったっていうお声を聴いたり、わかったというお声を聞いたときが一番なんか私としてはうれしいなと思う瞬間ですし、検定に合格したあとか、やったあとか、そういう笑顔の報告いただくときもなんか本当に一番最高にうれしい瞬間を。

加納：自分が受かったかのごとく。受講生さんたちと共有するという。

石島：はい、そういう時が一番最高にしあわせだなと思う時間です。

加納：飯村さん、彼女の教え方とか、どんな感じですか？

飯村：とても丁寧だね。うん、そつなくやっていただいて信頼も厚いと思いますよ。

加納：いまもう本当にフル稼働ですもんね。

飯村：フル稼働ですね。

加納：今、常勤講師という形で毎日札チャレの方にに来ていただいて教えていただいているんですもんね。

石島：はい。

加納：はい、ありがとうございます。では梅沢さんにもどんな講習をしているか教えてください。

梅沢：はい、えーと私は視覚障害ちょっと見えている、あの専門的にはロービジョンという

感じで、弱視で少し見えているんですけども元視のあの視覚障害がメインなのでそいであのやっぱり音声パソコンでなければ人にお伝えするとか自分でいろいろプライベートの方でもいろいろ認識して文章書くとか、そういうのが難しいので私は視覚の方で視覚障害に関わる講習をやっています。

加納：ご自身も視覚障害があって、やっぱり視覚障害の方に教える、なんてゆうんですかそのポイントっていうか、この気持ちなんていうのがよくわかるんじゃないかなあと思うんですけど、どうですか？そのあたりは。

梅沢：そうですね。あの弱視の人はやっぱりどうしても画面を見たい、音声でも操作するんですけど、どうしても見たいという気持ちが先に立ってしまうんですね。ただどうしてもマウスを操作するっていうのが私たち難しいので、それでキーボードでほしいパソコンの操作っていうのはほとんどするんですけど、どうもやっぱり見たい、どうもキーボードって難しい。いろいろな操作ができるんですけど、どうしても慣れるのに、ちょっと時間がかかったり。あのどうしてもキーボードを見ちゃう、音声がちょっと疎かになる部分とかもでてくるので、そこらへんの調整ですとか、そういうところが、やっぱりどうゆうふうに受講者さんにお伝えしたらいいのかなあっていうふうに迷うこともあるんですけども。あとは先ほど石島さんの方からもちょっとお話しがあったんですけども、やっぱり普通に目で見えているのと違って何かがないと達成感みたいなのが無いというか。でも後で例えばちょっとハガキの方を作ってみたりとか、そういうふうにした時、何か一つの作品というか、健常者の方は普通に簡単なところでも私たちには、それが出来たのが実感となるので、それが受講者さんからありがとうと言われたとき。出来た、ありがとうっていうふうに喜んでいただけるのがやっぱり一番の喜びです。

加納：なるほどね。

飯村：見えない成果を見えるかたちにする。

加納：うまいこと言いますね。

梅沢：そうですね。

加納：なるほどね、そうですね。はい、ありがとうございます。喜びを持ちながら講習をしていただいているということで。ええ時間が約半分くらい経ちました。ここで少しですね休憩で一曲、石島さんのリクエスト曲をかけたいと思いますけど、石島さん曲をご紹介ください。

石島：はい、スマップで、はじまりのうた。

加納：はい三角山放送局から札幌チャレラジオ通信をお伝えしております。この番組は 3 時 30 分までですから、あと 10 分ほどありますので引き続き、石島さんと梅田さんとお話しをしていきたいと思いますが、今のお二人の前半のところですね、どんな講習を担当していて、その講習のよろこびみたいなこととお話しいただいたんですけれども、それぞれ喜びはまさに札幌チャレと出会って体感できたことだと思うんですけれども、もう少しべつの視点からですね、札幌チャレと出会ってよかったなあと思うこととか、もしくは札幌チャレ前・札幌チャレ後。札幌チャレと出会う前と、札幌チャレと出会った後ですね、自分自身のこういう変化がありましたねとかですね、そんな視点で少し話を聞かしていただきたいんですが、引き続き牛島さんからよろしいですか？

石島：はい、札幌チャレに出会えてよかったと思うことは、まず自分がありのままの自分で無理もすることなく好きなパソコンを通して少しでも誰かのためにお役に立ちたいという夢がかなったことです。で札幌チャレに行く前は本当に絶望のふちにいたという大げさかもしれないですけど、私の場合はその当時は害もなかったですし、ただ病気で難病だということで、なかなか受け入れてもらえるところもなかったので、じゃあどうやって生きていけばいいんだろうってものがすごくあったので、その札幌チャレとの加納さんとの出会いから自分のこれからの生きていく道が明るくなったというか、本当にそういうふうに感じました。で今本当に札幌チャレンジドに長くお世話になってますがいま本当に札幌チャレでいきがいを見つけることができたなあってすごく思っております。

加納：飯村さん、どうですか今のお話し聞いて。

飯村：やっぱりこちらとしてはね。自然に振る舞ってお付き合いさせてもらってるけれども、本人にとってはね、すごく大きなものがあったというのは改めて思います。

加納：特に毎日ね札幌チャレに通っていただいているから、まさに自分のホームグラウンドっていうか、ホームを得たっていう感じなんですかね。

石島：そうですね、自分の朝起きて通う場所ができたっていう。しかも誰かのために自分がお役に立ててる場所があるって思えることが自分のいきがいに繋がってるなあって思います。

飯村：居心地はいい？

石島：いいです。とてもいいです。

飯村：時々わるいとか？

石島：いやいやいやいや。楽しい。

加納：そう学校の先生とある意味似ているところがあるからね。パソコンで先生と呼ばれながら、いろんな人と関わっていくんですもんね。楽しいそうですね。

石島：はい楽しいです。

加納：はい、ありがとうございます。では梅田さんはどうでしょうか？札チャレ前と札チャレ後で、こんなことを感じるようになったわとかありますか？

梅田：やはりですね、さきほどもちらっとお話ししたんですけれども、パソコンでやっぱり私はなにかやりたいというのが昔からすごく強かったんですよね。でもやっぱりパソコン、文字も小さいですし、いろいろ工夫することによって見えやすくなったり、そういうことはもしかしたらできるのかな、でもどうなんだろうっていう漠然とした思いがあったので、そいでパソコンが喋ってくれたら、と思っていたんですよね。でも札幌チャレンジドに関わらせていただく前は、もちろんそういうのにも出会わなかったですし、そいでやっぱりお手紙とか書くのも難しかったっていう感じだったので、そいでこゆう音声ソフトがあって補えるところがあるんだっていうところを札幌チャレンジドの方でいろいろ教えていただいていたので、それがすごく大きなことですよ。それ以前はもう。視覚障害の人って情報難民っていうのもよく言われてたりするんですけど、他の人みたく普通のパソコン操作している人みたくネットを使っていろいろ検索していろんな情報を知りたいというのがあったんですけれども。それが最初は文字を書くだけっていう感じで、手一杯だったんですけどやはりいろいろ先生方に教えてそれでネットも見れるようになったりだとか、いろいろパソコンで出来ることがすごく広がったので、それがとても良かったと思いますね、自分のなかでやっぱり。

加納：梅田さんは今はもう教える側、補助講師でもあっておられますけど、受講者さんの反応見ても、なんか自分が感じた喜びと同じような喜びっていうのを感じたりしますか？

梅田：そうですね。やっぱり何かしらの視覚障害ですとなかなか情報も取りづらいですし、

結構視覚障がいの方も音楽が好きな方ってすごく多いんですけど、今巷でユーチューブとかそういうので動画を見たり、歌を聴けたりっていうのがあるんですけど、難しかったのが音声パソコンを使うことによって聴けるっていうのが、そういう風に出来たっていうのが、ネットで買い物をしたりとか、そういうが出来たっていうふうにおっしゃって下さることがありまして。

加納：ありがとうございます。飯村さん、この辺りの視覚障がいの方にとってのパソコンっていうのをまた別の回にですね、是非一回、がっちりとやってもらいたいと思います。

飯村：改めてやりたいですね。まだ知らない人がいますものね。

加納：はい、ではもう大分時間も短くなってきましたが、最後の質問なんですけれど、札チャレでこれからこんなことやってみたいわ、みたいな夢のようなことがあったらですね、ちょっと短めでお聞かせください。

石島：やっぱりまだまだパソコンの、札チャレのようなところで、こうゆう講習してるよって知らない方がいっぱいいると思うので。これからもっともっと私もいろんなことを皆さんから教えて頂けるので、すごく楽しい講習ができているんですが、高齢者の方とかもね、もっと気軽に通ってこれるような、そういう講習が出来たらなぁと思います。

加納：そうですね。高齢者の方もパソコンを使えるようになるとね、はい梅田さんどうでしょう？

梅田：すいません。かなり緊張がマックス状態になりまして。

加納：夢でも何でも大丈夫ですよ。こんなことできたらいいわってみたいなのが、もしあれば。

梅田：そうですね。せっかくこういう風に札幌チャレンジドさんと会うこととかも出来たので、私たちパソコンを道具として受講者さんたちにお伝えすることはあるんですけども、札幌チャレンジドがいろんなものの発信源というような形で、IT機器っていうものだけではなく、何か色々他のパソコン以外の機器を紹介しつつ、そしてなんか、はい。

加納：ICTをもっと、視覚障がい者の方に活用してもらおうような中核になっていければっていうことですかね。

梅田：はい。

加納：はい、ありがとうございます。あっという間にラストのBGMが流れてきておりまして、飯村さん、今週はこうゆう講師のを、お二人来て頂いたんですけど、来週はどうゆう立場の方をお迎えする予定ですか？

飯村：私たちはね、講師会議という形で講習を運営しているんですけども、お二人は障がいをもった、いわゆるチャレンジド講師、今日来ていただいていますけれども、それ以外の方もね、どんな人が講習を担当しているのか、お手伝いいただいているのか、紹介したいと思います。

加納：そうですね。ボランティアとしてね、もう永く関わっていただいている方もたくさんおられますんで、そういった方の目を通して札幌チャレンジがどうゆうふうに見えてるのかっていうのをですね、聞かせて頂こうと思っております。で来週はですね、私はお休みをさせていただきますましてですね。飯村さんがMCをやって、進めていきますので、大丈夫ですか飯村さん？

飯村：いや、ダメでしょう？

加納・石島・梅田：あははは。

飯村：もう、ゲストだのみ。

加納：ほんとにゲストの人にしゃべってもらえると、こっちはOKなんですけどね。

飯村：そういうことですね。

加納：お二人はそういう意味では、今日は本当に丁寧にお話しを聞かせていただきまして、どうもありがとうございました。それでは三角山放送局をお聞きのみなさん、また来週お会いしましょう、さようなら。

飯村・石島・梅田：さようなら。